

八、大友宗麟書状

解説

キリシタン大名としても有名な九州の戦国大名大友宗麟（俗名義鎮）が、その家臣吉岡中務少輔に豊筑の内三十町を与えたもの。大友宗麟は天文十九年（一五五〇）の大友二階崩の変後家督を継ぎ、永禄二年（一五五九）に豊前・筑前・筑後の守護職を得、豊後・肥後・肥前と合わせて六ヶ国の守護、九州探題となっていた。永禄五年に入道して宗麟と名乗っていることと、天正元年（一五七三）に家督を長子義統に譲っていることから、本文書はその間のものと考えられる。